

日本全体陸域の解析

これまでの所、2015年はかなり地震活動が低調であった1年間と結論できます。下の図は2015年1月1日から12月18日までのマグニチュード5.5を超える地震をすべて図示したものです。海域を含めて24個が発生しました。

現時点で2015年の最大の地震は、11月14日に九州南西沖で発生したマグニチュード7.1が最大という状況です。それ以外にはM7を超える地震は発生していません。

実は2014年1年間もM5.5以上では同じく24個が図の領域で発生していますが、陸域ないし海岸沿いで2015年と比べてより多くの地震が発生していた事がわかります(右下の図)。

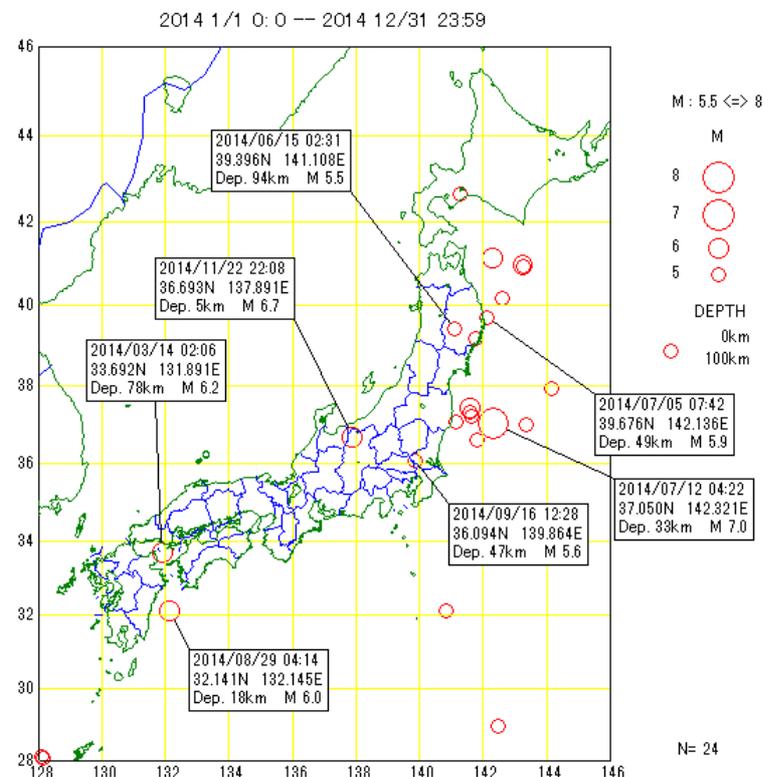
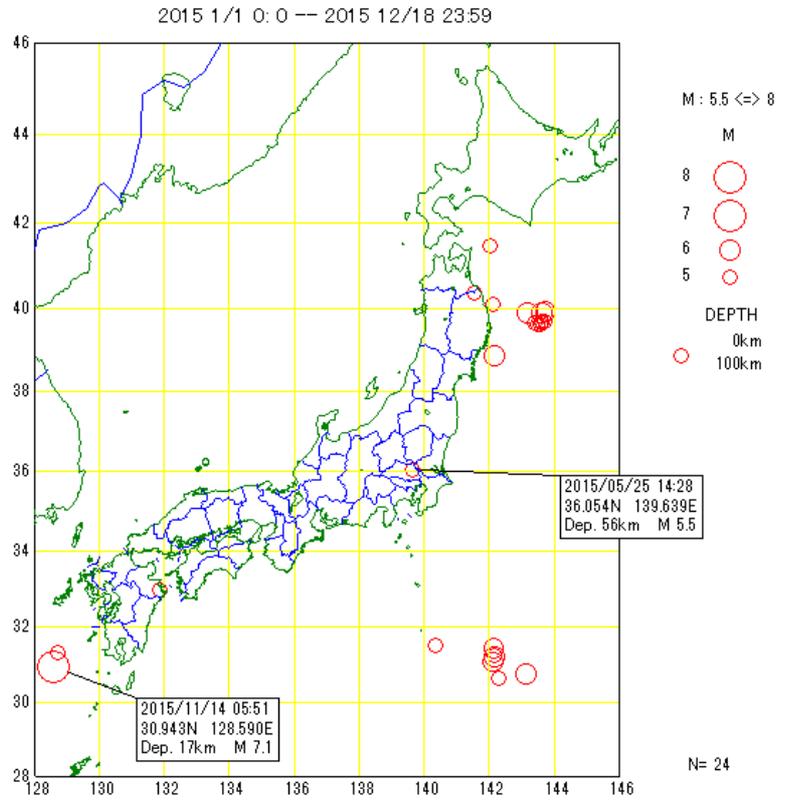
2015年はかなり陸域の地震活動が低調であったことがこの図からもわかります。

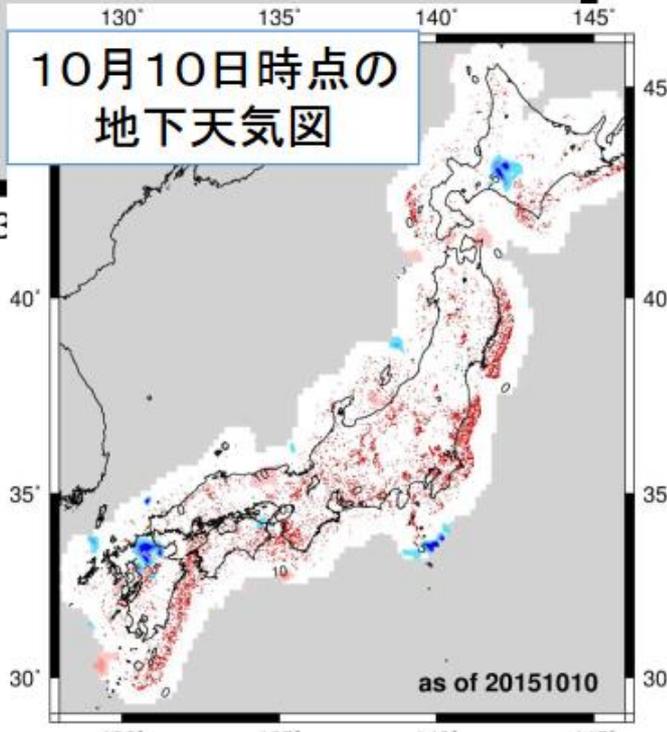
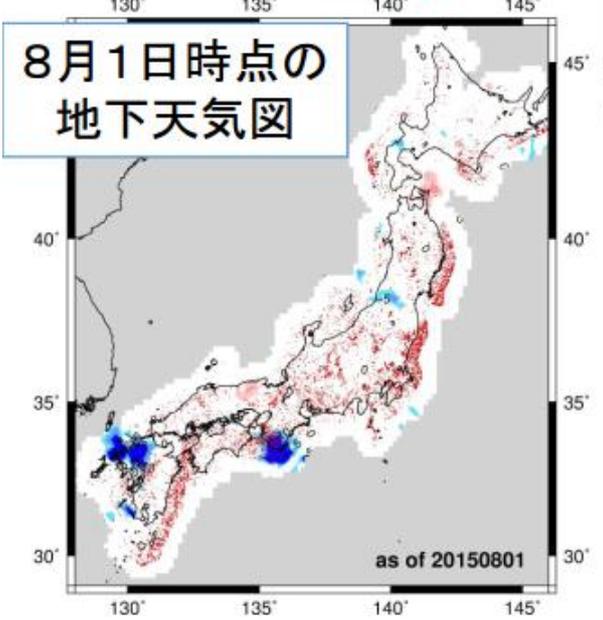
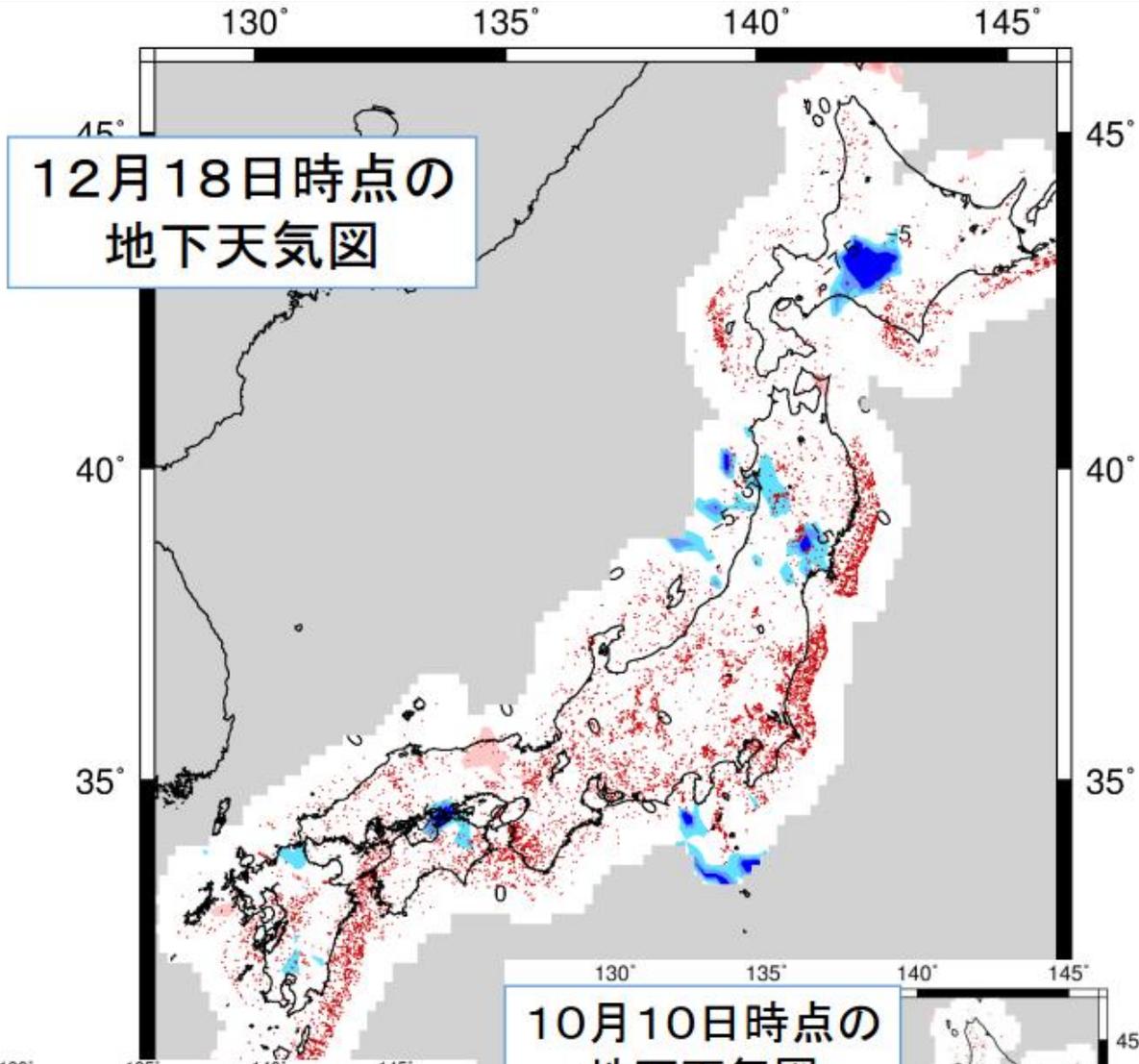
日本列島陸域の解析

今回お示しする地下天気図は、東日本大震災(3.11)以降の地震データを使った陸域に限った解析です。マグニチュード6.5以上の地震を対象に解析しています。

3.11以降は地震発生の様相がそれ以前と比較し、かなり変わってしまいました。現在ようやく地震活動が落ち着いてきたという状況ですが、まだ3.11以前と以後を特に東北地方で統一的に解析する事が難しい事から、3.11以降だけで今のところ解析を行っています。

次のページの図から、現在地震活動静穏化という意味で地震発生の可能性が高い場所として、九州北部、紀伊半島南部、そしてまだ発生するのは先と思われ
ますが、北海道中部と推察できます。





この図の範囲外では、秋田県沖で地震発生の可能性をこれまでも指摘しております。過去の経験則では、青い領域（静穏化領域）が消滅してから地震が発生する可能性が高いという結果がでております。